令和６年９月３日

東浦町議会議長殿

文教厚生委員会
報告者　秋葉 富士子

文教厚生委員会行政視察報告書

1．視察年月日　令和６年７月２日（火）～３日（水）

２．視察先　　７月２日 神奈川県大和市
（人口：243,990 人※2024 年７月現在、面積：27.06 ㎢）
７月３日 神奈川県伊勢原市
（人口：101,505 人※2024 年５月現在、面積：55.56 ㎢）

３．参加者　　文教厚生委員会
（秋葉富士子、北野興地、前田明弘、三浦雄二、山田眞悟）
船津光裕ふくし課長、松野竜也議事課主事

４．視察の目的　神奈川県大和市　おひとりさま支援についての調査
神奈川県伊勢原市　孫育て支援についての調査

５．視察の概要、及び所感

【 神奈川県大和市 おひとりさま支援について 】

＊　視察の概要

（１）事業に至った経緯

2016 年７月　福祉政策の一つとして「葬儀生前契約事業」を生活援護課で開始
（対象：身寄りがない単身者、不動産未所有、預貯金約 100 万円以下、
月収概ね 16 万円以下）→　１年 11 か月で相談件数 168 件、事業登録者１人、
2018 年６月　おひとりさまなどの終活支援事業開始　　所管を健康福祉総務課に移管「おひとりさまなどの終活支援事業」としてリニューアル
（対象：資産、世帯状況、年齢等を問わない、「一人暮らし」、「夫婦や兄弟姉妹だけで暮らす世帯」、「子どもに負担をかけたくない世帯」）
⇒<u>実質、終活の心配を抱える市民すべてを対象に</u>
2021 年４月　「おひとりさま政策課」の創設
2021 年７月　「大和市終活支援条例」施行
2022 年６月　「大和市おひとりさま支援条例」施行
2024 年４月　人生 100 年推進課「おひとりさま施策推進係」に再編

（2）おひとりさま施策推進事業

（おひとりさま施策推進係：３人　係長１、係員２人）

＊　終活支援事業

①「終活支援条例」2021 年７月施行

※条例化したことにより、一時的なものではなく、**市が腰を据えて支援する姿勢を明確に示すことで、市民に安心感を持ってもらう。**

② 終活相談（終活コンシェルジュ）

終活全般の不安、悩みごとの相談や、これから終活を始める方へのアドバイスなど。

③ 葬儀等生前契約支援(対象者が終活コンシェルジュに相談⇒ 契約の締結を支援⇒ 葬儀・納骨の実施について事前に契約・遺品整理や各種契約解除などの事務の委任契約⇒対象者が亡くなった後、市役所から親族・知人に亡くなった事実・葬儀の日時・お墓の場所等を伝える。）

④ 終活登録（葬儀生前契約を締結された方を対象に終活登録⇒登録カードの発行・生前の電話による安否確認・葬儀生前契約の履行確認・知人等への連絡〈死亡事実等〉）

⑤ 終活クイズ（年２回実施、添削し参加賞とともに返信）

⑥ 終活イベント（終活セミナー、終活映画上映会、終活・落語講演会）

＊　おひとりさま支援事業

① 2022 年６月　「おひとりさま支援条例」施行

※条例化したことにより、一時的なものではなく、**市が腰を据えて支援する姿勢を明確に示すことで、市民に安心感を持ってもらう。**

② おひとりさまに関する調査・情報収集（毎年、65 歳以上のおひとりさまにアンケートを実施。動向、参加しやすいイベント等ニーズを把握し、施策に活用。）

③ 生活お役立ちガイドの発行（高齢の一人暮らしの方が不安や疑問に思うことについて､対応方法や相談先を 4 コマ漫画を用いてわかりやすく紹介。）

④ おひとりさまサロンの開催（おひとりさまでも気軽に参加でき、同じような境遇の方同士で、交流を深めてもらう場を提供。）

（3）事業実績

市民からの相談・登録件数推移

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	合計
相談件数	108	47	189	219	161	285	233	309	1,551
登録件数	－	－	21	18	4	7	10	8	68

（4）事業のトラブル事例

・事例：協力葬祭事業者の事業廃止⇒ 事前登録者のうち２名が該当。⇒ 事業者が廃業している事実を確認後、登録者に説明。他の協力葬祭事業者の協力のもと、登録事業者の変更手続き。⇒ 大きなトラブルにはならず。市は事業者の情報提供はしているが、契約は本人の責任で実施。

（５）利用者の評価

・親族Ａさん（姉が障がい者の娘と二人暮らし。死後のことを娘には託せないため、自分で市の終活支援事業を活用。葬儀・納骨まで生前に準備。生前の準備を支援してくれた市には感謝。
・知人Ｂさん（身寄りのいない友人が癌で余命宣告を受け相談された。終活支援事業を紹介し、登録。亡くなった時も市が葬儀社とうまく連携して対応。スムーズに火葬し、永代供養墓に納骨。本人も安心できたと思う。）
・登録者Ｃさん（夫と二人暮らし。市の事業を知り、夫婦で登録。元気なうちに話しづらい葬儀のこと等話すきっかけになり、早めに準備できてすっきりしている。）

（６）事業の効果

（参考）昨年度のイベントの実績

日　程	イベント名	概　　要	参加者実績
８月 29 日	おひとりさま支援講演会	税理士による相続税対策の講演会	94 人
10 月 25 日	おひとりさま支援映画上映会	映画「老後の資金がありません！」の上映と 市内協力葬祭事業者による個別相談会	約 800 人
12 月 22 日	第２回　　〃	映画「オケ老人！」の上映と お墓の終活情報提供会	145 人
２月 15 日	終活・落語講演会	市内出身プロの落語家による落語と 終活トークショー	605 人

＊　所　感

・住民が人生の最期をいかに安心して迎えられるかを考え、条例化して施策に取り組んでいる大和市の姿勢は学ぶべきものがあると感じた。
・ネガティブに捉えがちな終活に関することをクイズやアンケート等を活用し、楽しく創意工夫して取り組んでいることが実績に表れており、市民に共感を得ているのではと感じた。
・おひとりさま支援事業として特に秀逸なのが、Ｑ＆Ａ方式の生活お役立ちガイド「これ１冊あればひとり暮らしもひと安心！」を発行している。すでに延べ３万部発行し、好評を得ているとのことであった。

・終活活動を支援する事業に相談が多く寄せられていて、終活の心配を抱える市民が多いからだと感じた。おひとりさま推進係は３名であったが、充実した業務ができていると感じた。
・生活お役立ちガイド「これ１冊あればひとり暮らしもひと安心！」は家庭内で生活する中でも自分のマニュアルとして緊急事態でもすぐ活用できる冊子であり、親切さを感じた。
・本町も当冊子を乗り越えるチャレンジの方向性を期待する。
・終活支援事業の始まりは横須賀市、神戸市は今年５月にスタート、全国的に広まっていくようである。

【神奈川県伊勢原市 孫育て支援について】

＊　視察の概要

『はじめての孫育て教室の概要』

・年２回開催（７月頃、２月頃）
・13:30～15:30 の２時間
・対象者は妊婦またはこれから祖父母になる方が市内在住の人。
・定員 20 名（１家族４名まで）
・スタッフ３名（常勤保健師１名、会計年度助産師１名、会計年度栄養士１名）

（１） 孫育て教室の開催に至った経緯

・2018 年より開始。

新生児訪問等で母親から祖父母との考え方の違いに悩む、昔のやり方を押し付けられる等の声が時々聞かれていた。

近隣市（平塚市、秦野市）でも同様の教室を開催。産後のより良いサポートが得られるように、祖父母教室を開催することとした。

2018 年度は試行的に年１回開催。参加者の反応が良かったため、次年度からは年２回開催。

（２） 実績（参加者数）

	2018	2019	2020	2021	2022	2023
開催回数	１回	２回	２回	２回	２回	２回
妊婦	８	６	１１	１１	１２	１１
夫	０	０	０	２	３	０
プレ祖母	１３	１６	１５	１５	１８	１８
プレ祖父	２	２	７	５	３	３
その他	０	０	０	０	０	１（妊婦の妹）
合計	２３	２４	３３	３３	３６	３２

（3） 教室の内容

・オリエンテーション
・子育ての今昔クイズ
・マタニティブルーと産後うつ
・乳幼児揺さぶられ症候群（SBS）について
・沐浴実習
・まとめ
※近隣市の教室の内容や、既刊されている祖父母手帳等を参考に教室の内容を検討。

（4） 講義で注意・工夫したこと

・昔のやり方を否定するわけではなく、新しくわかってきたり、解明されたことで子育ての方法が変化していると伝える。
・育児の主体はパパ、ママであるが、（祖父母に）一番身近なサポーターとして協力してほしいことを伝える。
・教室の待ち時間に〇×クイズを行い、講義で答え合わせを行う。
・離乳食教室（４～6 か月児の保護者）参加者にアンケートを取り、妊娠中・産後に助かったこと、ちょっと困ったこと等祖父母へのメッセージをまとめ、ママの声を知ってもらえるようにした。
・沐浴の実習
・育児用品（哺乳瓶、ベビー服、抱っこひも等）を展示

（5）参加者の反応（アンケートより）

（プレ祖母）
・自分の時代との違いに驚いた。
・お嫁さんの負担にならないよう気をつけつつ、おばあちゃんの体験を楽しみたい。
（プレ祖父）
・いろいろと勉強になった。
・おじいちゃんになる実感がわいてきてよかった。
（妊婦）
・母が自分を育ててくれた頃と考え方が違うので、母に知ってもらえてよかった。
・祖父母も一緒に参加できる教室は貴重な機会なので、これからも続けてもらいたい。
（夫）
・義父・義母も楽しそうに実習していてよかった。
・子どものことを考えるきっかけになった。

（６） 課題・要望

・「もう少し開催回数が多いとよい」との意見もあったが、定員を上回ることもないため、当面は年２回を継続予定。

（７） 事業経費

・人件費：会計年度任用職員の報酬
・消耗品：育児物品等（父親・母親教室で使用しているものと共通）

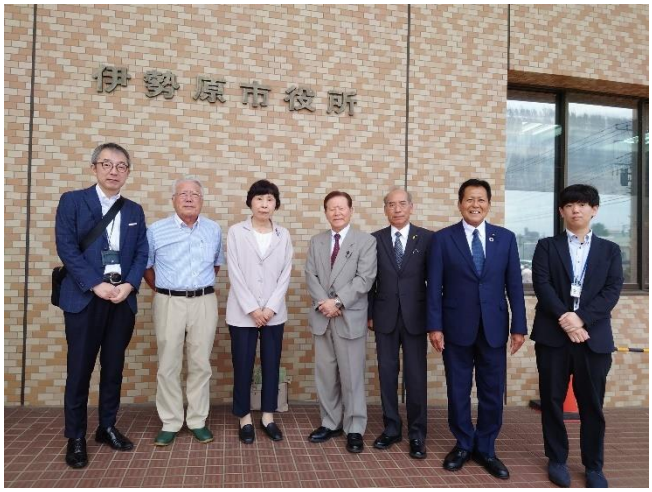
（８） 教室を実施してみて

・毎回、「孫を迎えるために」という温かい雰囲気で教室が行えている。
・祖父母世代も自分の子育てを振り返ったり、家族で子育てについて話をするきっかけになっている。
・祖父母世代とパパ・ママ世代が同じ知識を持つことができ、一緒に考える機会となるため、継続していきたい。

＊　所　感

・新生児訪問等からの声で取り組んだ施策で実績等も好評でいい施策だと感じた。本町で祖父母に対する施策ができないかと考えた。
・育児の主体はパパ・ママであり、祖父母はあくまでもパパ・ママのサポーターであることを再認識させられた。公私ともに非常に有意義な視察研修であった。
・元気な高齢者も多いので、有効活用できるような施策を作っていきたいと思った。
・子育て今昔クイズは興味深く、参加者のアンケートは参考になった。
・育児の主体はパパ・ママであるが、祖父母が一番身近なサポーターとして協力してほしいことを伝える大切さについて理解できた。
・大都市周辺自治体の孫育て等の住民意識と自分の意識にギャップがあり、客観的に評価が難しい。

大和市　議場



伊勢原市役所前